

## アジアのケージフリー移行における決定的な欠落： 2025年トラッカーが企業透明性の課題を指摘

ジャカルタ、**2025年12月26日** – アジアの食料システムは重大な岐路に立たされています。**2025年**までを期限とするケージフリー化への取り組みにおいて、地域全体の企業が期限を迎えようとする中、勢いは明らかに高まっています。しかし、一見すると進歩のように見えるこの動きは、現場で実際に起きている状況とは切り離されていることが明らかになっています。

本年版のアジア・ケージフリーストラッカーはこの整合性の欠如を浮き彫りにしています。**2025年版**ではインド、インドネシア、日本、マレーシア、タイの**95社**の食品企業を評価し、同地域が変化しつつあるものの、その速度や透明性のレベルには大きな差がある実態を明らかにしています。これら**5つ**の市場はアジアにおける卵産業の基盤を形成し、世界的なケージフリー原料の供給を左右します。各市場における進捗の有無が、多国籍ブランドが動物福祉の公約を達成できるか否か、そして数百万羽の鶏がケージに閉じ込められたままとなるか、より福祉性の高いシステムへの移行を始めるかを決定づけるでしょう。

アジア全域で、企業の取り組みが消費者期待の高まり、グローバルブランドからの圧力、動物福祉問題への認識拡大に応え始めています。しかし本トラッカーは、関与は拡大する一方で実施が追いついていないことを示しています。現在**70.5%**の企業が何らかの進捗を開示しており、**2024年**の**69.8%**からわずかに増加したものの、アジアが世界の卵供給チェーンに及ぼす影響の規模を考慮すると依然として不十分な水準です。実に**3分の1**近い**29.5%**の企業が一切の進捗情報を公開していないのが現状です。そして、最も顕著な点は、多くの企業が数年前に移行を公約していたにもかかわらず、**2025年末**までに完全なケージフリー化を達成、またはその目標達成に向け順調に進んでいる企業はわずか**14.7%**に留まっていることです。

世界的な卵経済におけるアジアの中心的な役割を考えると、この遅いペースは特に懸念されます。同地域は世界中の商業用卵の大部分を生産しています。タイはアジアをはるかに超えたサプライチェーンを持つ卵および加工原料の主要輸出国です。インドネシアとマレーシアは国内および地域の供給安定性を左右します。インドは卵粉と加工原料分野での存在感を拡大し続け、国際的な製造部門を支えています。一方、世界有数の一人当たり卵消費量を誇る日本は、需要を満たすために輸入に大きく依存してしています。こうした相互依存関係ゆえに、アジアがケージフリーシステムへ移行する速度こそが、グローバルブランドが自らの取り組みを履行できるか否かを決定づけるのです。

しかしこの地域の大部分では、バッテリーケージが依然として標準的な生産システムであり続けています。鶏はA4用紙よりも狭い空間で一生を過ごし、翼を広げたり、巣を作ったり、止まり木に止まったり、砂浴びをしたり、その他の自然な習性を示すことができません。このようなシステムは、深刻な福祉上の懸念から、欧州連合（EU）、カナダ、ニュージーランドなどでは禁止または段階的に廃止されています。しかしアジアでは、企業による取り組みの拡大にもかかわらず、その移行は依然として遅く、不均一なままです。

2025年トラッカーは各企業を9段階に評価し、明確なリーダー企業と大幅な遅れをとる企業群を明らかにしています。Aman Resorts、Capella Hotel Group、Illy Caffè、Lotus Bakeries、Shake Shack、Starbucks、Pizza Marzano、The Cheesecake Factoryといったブランドは既にアジア全域で完全移行を達成しており、ケージフリー調達の実行可能性と拡張性を示しています。一方、Bali Buda、Groupe Holder、Groupe Savencia、IKEA、Pizza Express、ViaVia Restaurantなどの企業は、2025年末までに移行を完了することを確認しています。

また、本トラッカーは不透明な対応や非協力的な企業を指摘しています。アジア地域別の詳細な進捗を報告せず、グローバルな進捗のみを報告している企業は33社に上り、地域別実施状況の評価を不可能にしています。さらに、公開報告を一切行っていない企業は28社に及びます。こうした透明性の欠如は消費者の信頼を損ない、地域全体の進捗を遅らせる要因となっています。

各国の相違は、さらに分断された状況を浮き彫りにしています。

- インドネシアは最多の参加企業数を誇るが、実施状況にばらつきが見られる。
- インドは報告体制が整っているが、ブランド間でのフォローアップに大きな差がある。
- 日本は調査対象市場の中で最も透明性指数が低い。
- タイは確固たる取り組みを示すが、先進的な実施は限定的である。
- マレーシアは継続的に参加企業数を増やしているが、大半の企業では地域特化型の開示が依然として不足している。

これらの格差は、サプライチェーンの発展状況、原材料の入手可能性、そして各地域の市場の成熟度の違いを反映しています。

取り組みの進捗状況は業種によっても異なります。参加企業のうちレストラン、カフェ、ホスピタリティ企業が最大の割合を占める一方、世界的に使用される加工卵原料の製造を担う製造業者の進捗は最もばらつきが顕著です。この不均一性は特に

重要であり、原料製造業者こそがケージフリーの取り組みを消費者が実際に購入できる製品へと結びつける上で不可欠な存在だからです。

アジアにおけるケージフリー移行の勢いが増しているにもかかわらず、本トラッカーは透明性が依然として欠けている要素であることを指摘しています。透明性が確保され、検証可能な報告がなければ、進捗を測定し、課題を特定し、取り組みが農場における実質的な変化につながることを保証することは不可能です。

2025年の期限が迫る中、各企業は詳細な進捗報告の公表、アジア地域に特化したスケジュール共有、今後の取り組みの明確化、そして実際の導入事例の記録が求められています。アジア全域の消費者は、食品の生産プロセスに対する透明性を次第に強く求めるようになっており、こうした期待に応えられない企業は、一般消費者だけでなく、国際的なパートナーや投資家からの信頼も失うリスクに直面します。

「進展は確認できるものの、求められるペースには達してません。」と、本レポートの著者であり、アジア地域のコーポレート・アカウンタビリティ・リードを務めるヌルカヤティ・ダルニファ氏は述べています。「今後1年は極めて重要な時期です。透明性と責任ある調達への期待が高まる中、情報更新を遅らせたり差し控えたりする企業は、遅れを取るリスクを負うことになります。」

現在、アジアにおける食品産業は岐路に立っています。今後1年間に下される選択が、同地域が動物福祉の分野で世界的なリーダーと化するか、それとも国際的な進展を阻むボトルネックとなるかを決定づけるでしょう。

一つ確かなことは、企業が透明性のある報告、説明責任のある取り組み、そして実質的な実施を通じてのみ、鶏がケージに閉じ込められることのない食料システムへの移行を推進できるということです。

**Sinergia Animal**は、アジア全域の鶏がケージから自由に暮らせる未来、そして地域の消費者が責任、透明性、そして思いやりを基盤とした食糧システムを利用できる未来を目指して、進捗状況の監視、企業との連携、提言活動を継続してまいります。

**Media contact**

Valaiporn Chalermvapvoraboon

Communications - Sinergia Animal (Thailand)

Email: [vchalermvapvoraboon@sinergiaanimal.org](mailto:vchalermvapvoraboon@sinergiaanimal.org)

Farah Ayu Fadila

Communications Lead - Indonesia

Email: [ffadhila@sinergiaanimal.org](mailto:ffadhila@sinergiaanimal.org)

**Corporate Accountability**

Nurkhayati Darunifah

Corporate Accountability Lead Asia

Email: [ndarunifah@sinergiaanimal.org](mailto:ndarunifah@sinergiaanimal.org)